

新 大井町

現状、大井町という都市は品川区中心に位置し、JR京浜東北線、東急大井町線、りんかい線の3路線が乗り込んでいることに加え、近隣に住宅地も隣接しているため、人の移動の量はとても多い。しかし、大井町はあくまで通過点の都市、駅にすぎない。そこで今回は、大井町で半日を過ごしてもらえようようなリノベーション案を提案し、大井町という都市を自由が丘、神保町のようなブランド力を持った都市にしていく。



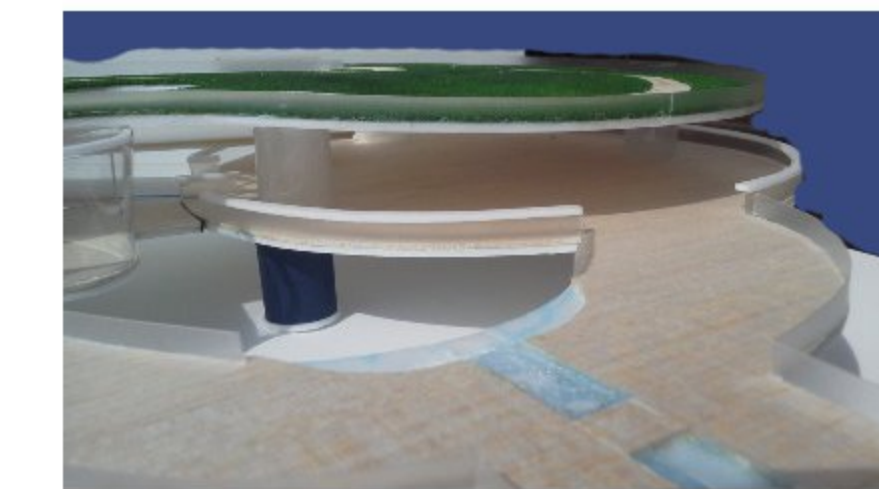
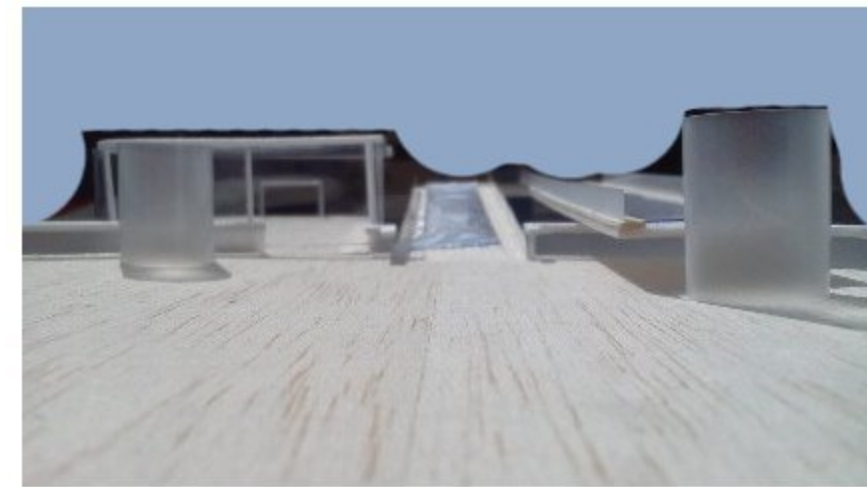
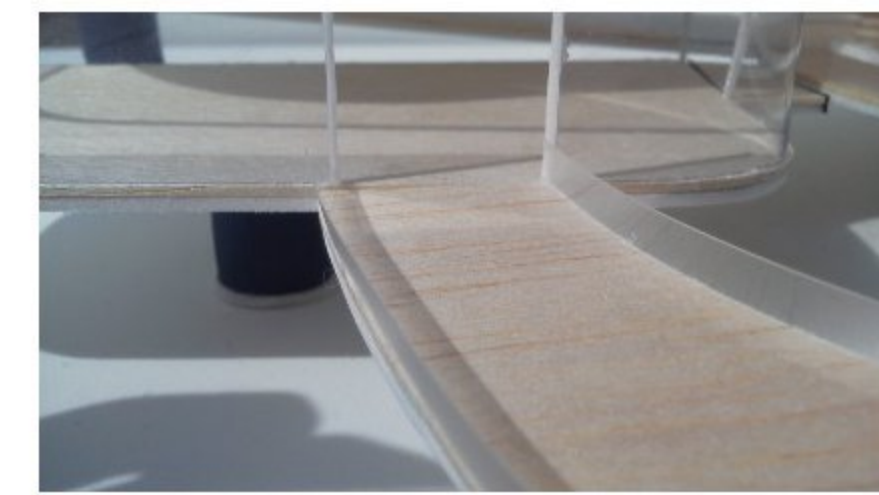
憩いの場



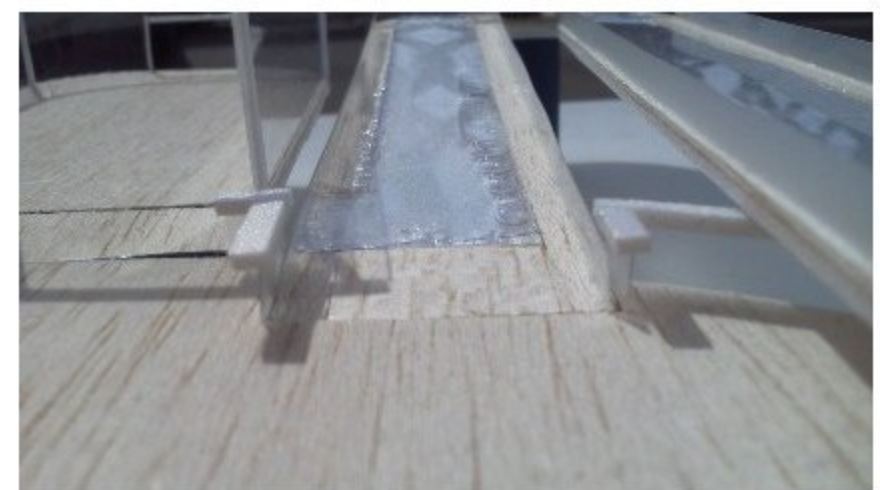
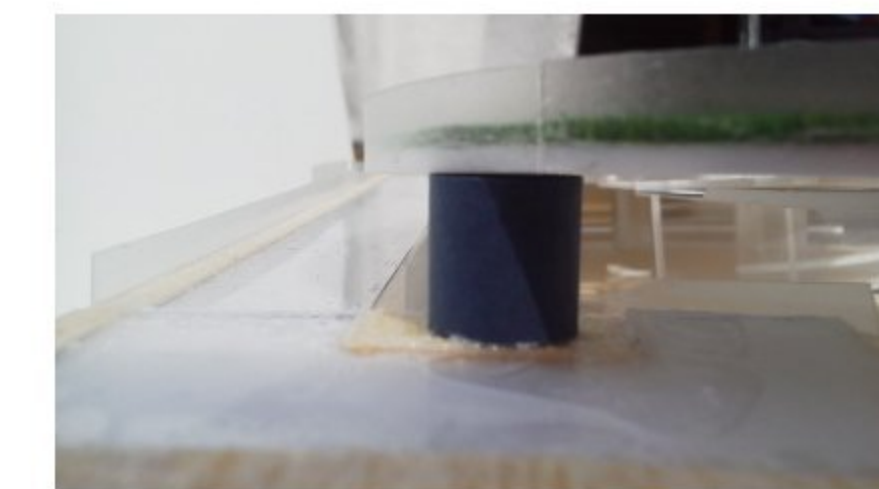
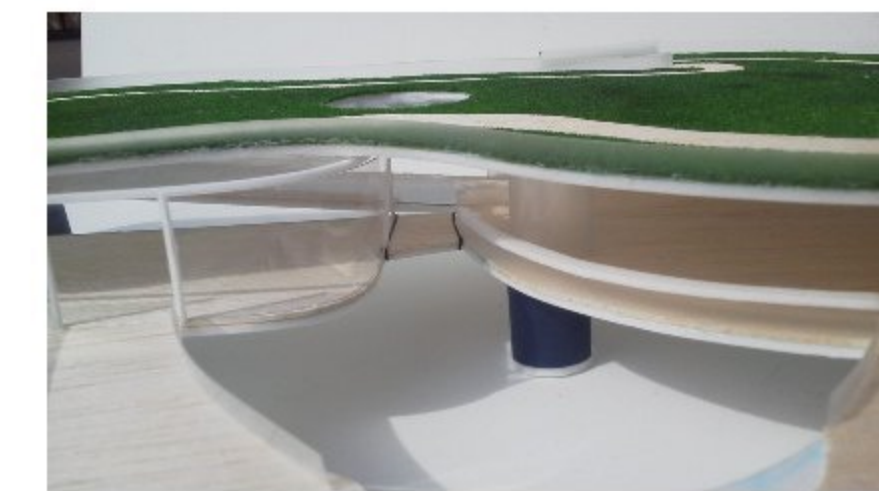
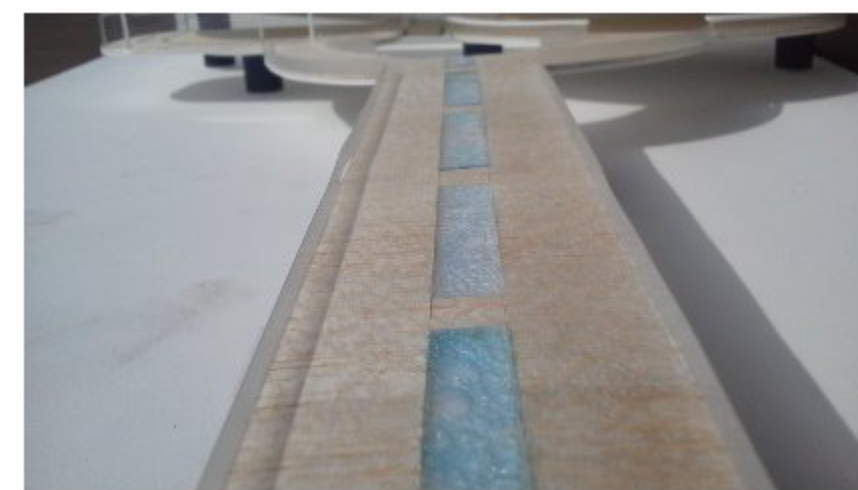
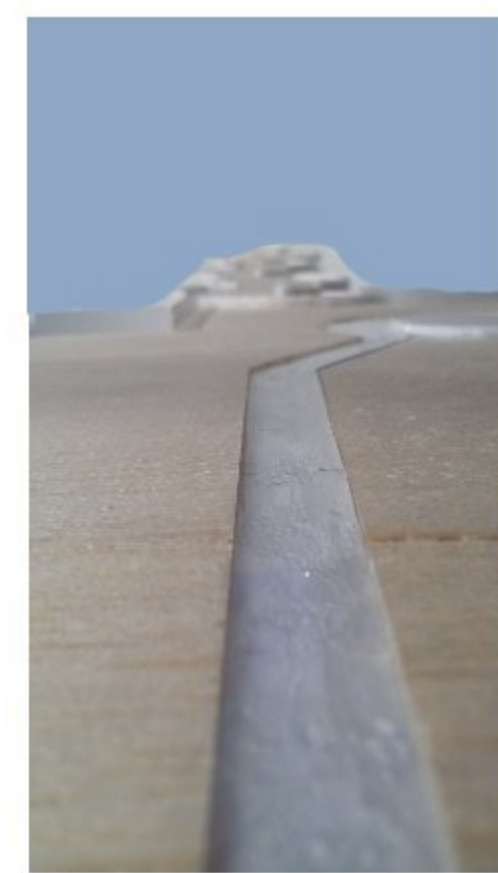
コミュニティースペース



全体図



オープンスペース
盆踊り



人を導く水

人があつまる大井町駅前中央通りアイデアコンペ

現状、大井町という都市は品川区中心に位置し、JR 京浜東北線、東急大井町線、りんかい線の3路線が乗り込んでいることに加え、近隣に住宅地も隣接しているため、人の移動の量はとても多い。しかし、大井町はあくまで通過点の都市、駅にすぎない。そこで今回は、大井町で半日を過ごしてもらえようなりノベーション案を提案し、大井町という都市を自由が丘、神保町のようなブランド力を持った都市にしていく。

まず、いかにして駅から人を街のほうに導いていくのかだが、現状のままでは提案エリアへのアプローチが視覚的にわかりずらいため、中央改札のある2階からそのまま外へつながるアプローチを作る。そして、西口のバスロータリーから中央通りまでその上部に歩道橋のような、全体でログをイメージさせるよ一な自然あふれる部分を創造し、駅からの人の流れをつくりだす。さらに、その部分は大小さまざまな大きさの円から構成られ、一つ一つが区切られているようで自然なつながりをもつ空間を保ちながら連続し、さまざまな世代を適度に分けながらそれぞれが憩いの場所として活用できるようになっている。また、地上部分の沿道には植樹を促進し、木のつくりだすみちによって人を導き、上部からは木を見下ろすことができ、好奇心を湧き立てる。

このように人を主要な通りの上部に集めることで、上から下へと人の流れを作り出し、中央通り全体を人を循環させる。人が流れ、滞留する空間を提供することによって沿道の地上部分に商業施設を誘致し、街全体の発展につなげていく。

さらに、今まで憩いの場として確保されてきた中央通りを右にそれた道は、第二京浜へと続く車道があり、交通量が多い一方で、反対からの車はこない片側一車線の道であり、その広い道はより広く活用されるべきだと考えた。よって今ある二輪車置き場を撤去し、車道と歩道を安全に隔離し、人がより多く滞留できるような休憩の場、ちょっとしたアスレチックを設け、幅広い年齢層の人が集まる大井町に合わせた設計にする。今ある樹木を生かしつつ、上から降り注ぐ光を木漏れ日として受け入れられるよう、半透明な雨よけを設置し、人々をやさしく包み込んでいるようにする。

このように、駅前に緑を取り込んだ立体物を設置することが、これからの未来、都市を発展させていく一つのポイントになると考える。